

星屑

VOL. 254
May' 96



百武彗星の写真大募集中！！写真は天文台へ郵送か、ダイレクトにお持ち下さい。
撮影データもいっしょによろしくネ。特集予定しております。

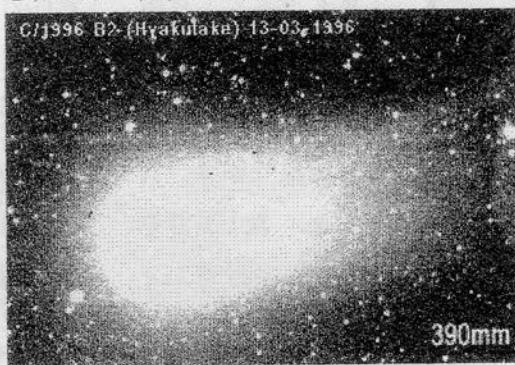
熊本県民天文台

CCD REPORT

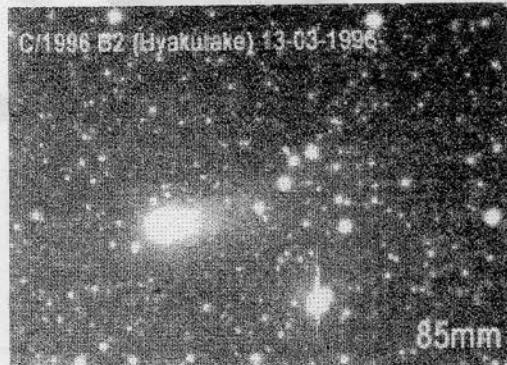
COMET PAGE

Porco Nisse

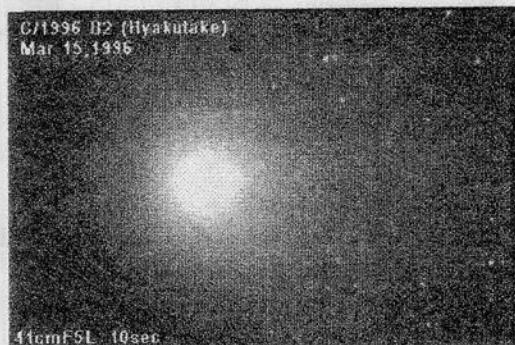
☆ C/1996 B2 (Hyakutake) 先月報告した短焦点撮像装置が稼働をはじめました。レンズはペンタックスの 85mmF1.4 で、CCD は HPC-1/TELERIS-400 を使います。この CCD はピクセル・サイズが小さいのでこのような短焦点向きといえます。



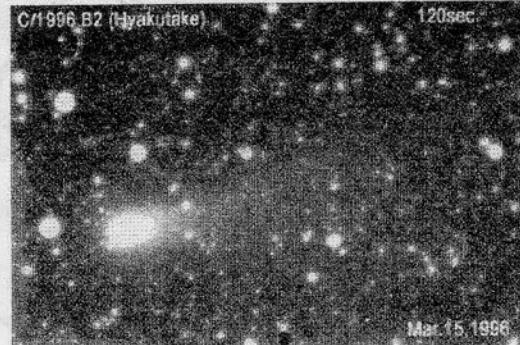
△ 3月 13 日 390mm にて撮像



△ 3月 13 日 PENTAX85mmF1.4 にて撮像



△ 3月 15 日 41cmF5 反射直焦点撮像



△ 3月 15 日 PENTAX85mmF1.4 にて撮像



△ 3月 22 日 PENTAX85mmF1.4 にて撮像

← 3月 22 日 41cmF5 直焦点撮像



C/1996 B2
Mar. 25

KOAO

大彗星になるぞ！と期待された百武彗星が文字どおり大彗星となって春の夜空を駆け抜けました。今回は、この大彗星を特集してお届けします。へたな説明は不要の写真ですよね。

長い尾は銀塩写真に任せることにして、本ページでは主に核近傍の拡大写真を紹介しましょう。各写真をよく見ると核近傍の構造が微妙に変化しているのにお気づきでしょうか？

なお、写真はすべて北が上になっています。

← 3月 25日 PENTAX85mmF1.4

← 3月

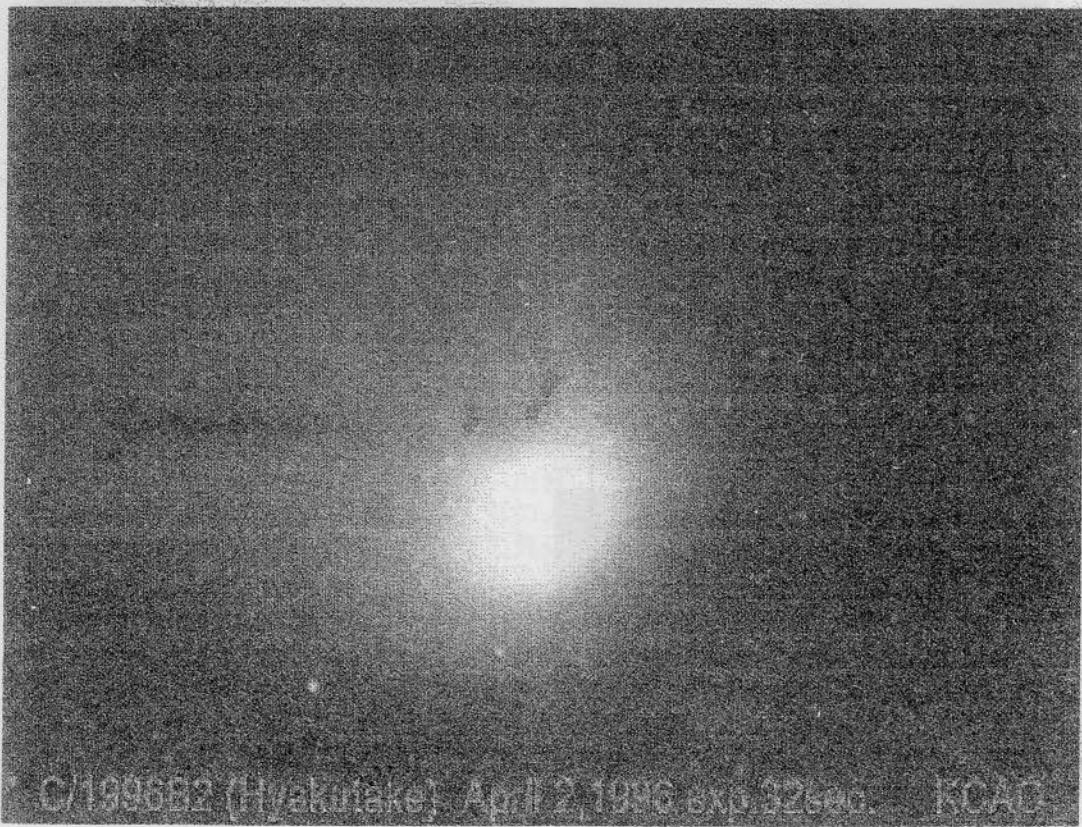
25日
核近傍
反転写
真

→

25日
核近傍
ボジ写
真

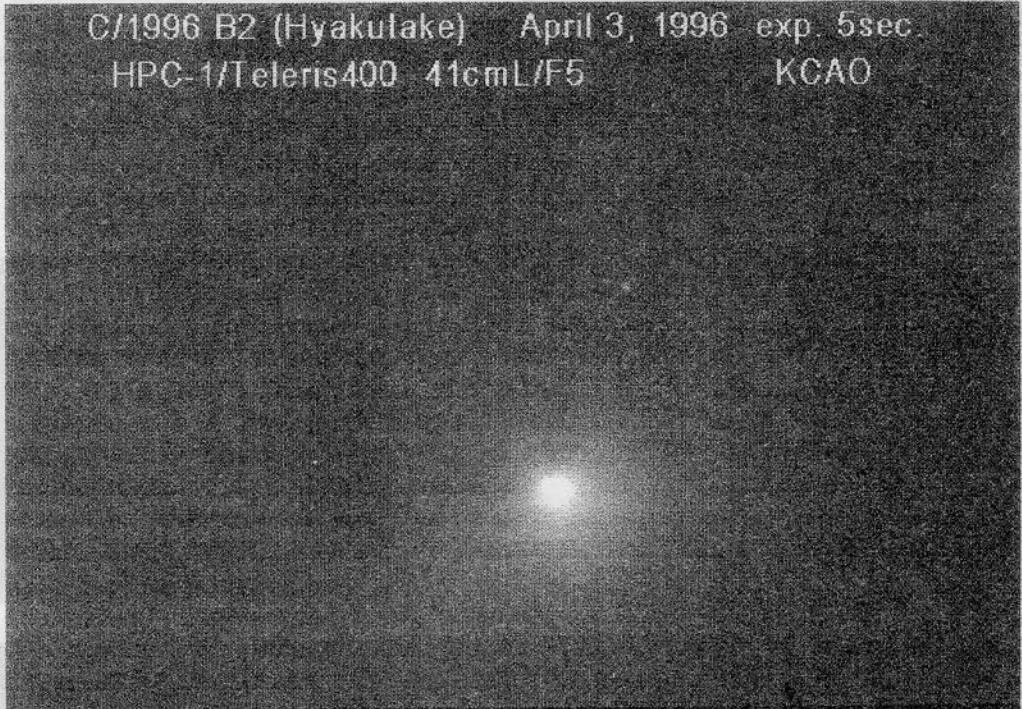


▽ 4月 2日 カラーCCDカメラ (STARDOM BT-11C) による核近傍写真

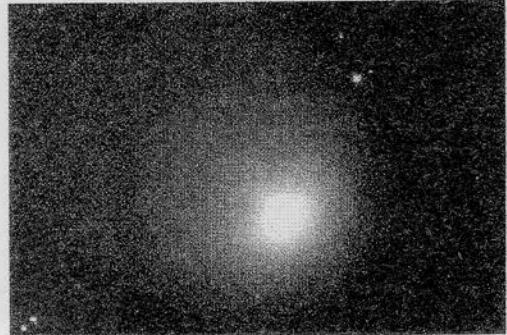


C/1996 B2 (Hyakutake) April 2, 1996 exp. 32 sec. KOAO

C/1996 B2 (Hyakutake) April 3, 1996 exp. 5sec
HPC-1/Teleris400 41cmL/F5 KCAO

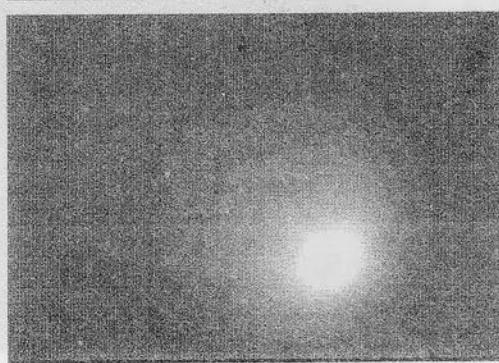


▽ 4月5日 PENTAX85mmF1.4 での撮像 △ 4月3日 HPC-1/TELERIS400 による核近傍



△ 4月7日 41cmF6 反射による核近傍
← 4月5日 41cmF6 反射による核近傍

いかがでしたか？ こんなにみごとな彗星はひさびさの出現で、はじめて見た方も多かったことでしょうね。3月25日には、KCAOでも尾が60度見えましたので、空の暗いところではもっともっと長く見えたことでしょう。残念だったのはお天気が良くなくて快晴のすっきりした空で見れなかったことです。これらの撮像もほとんど雲の隙間をぬって撮像したものばかりでした。



大成功！ 百武彗星観測会！！

中島 尚

3月19日（火）と22日（金）に行なった百武彗星観測会は、実にたくさんの参加で、大成功のうちに終わりました。一番心配された天気も22日には晴れ間のぞく天候となり、肉眼でもはっきりとその姿を見ることが出来ました。以下、少しその時の様子を報告します。

19日（火）

夕方からの曇り空で、とても星など見えそうもない様子でしたが、そこは新聞の報道とテレビラジオの宣伝の効果の絶大さで、7時前から電話が鳴りっぱなしで、今日の夜のパニックを感じさせました。そして迎えた21：00。今日の観測会の開始時刻です。しかし、相変わらずの曇り空。ここで、艶島氏が朝3時に起きて撮っておいたI.I.によるビデオ画像が活躍することになりました。そこには、尾をなびかせて輝く百武彗星の姿がはっきりと捉えられていました。結局、ほとんど見ることは出来ませんでしたが、みなさんには満足して帰っていただきました。

22日（金）

このころの天気変化の周期を考えて（中島考）設定したこの日の観測会でした。ほとんどの天文台が23日（土）に観測会を設定して曇りのため中止となったのを尻目に、県民天文台では見事に予想的中の好天に恵まれました。

夕方から次第に天候が回復し、21：30頃にはもうすでに100人以上の見学者で天文台は埋まってしまいました。やっと出番の回ってきたミードの31cmドブソニアンも古墳の中に引き出されて、熊大の学生さんによって一般公開に使用され大活躍をしました。

この日の百武彗星は地平線から上る頃から双眼ではっきりと見え、少しつともう肉眼でもはっきり確認できました。ほとんどパニックのような状況の中、500人以上の人の参加で盛り上がった観測会となりました。

番外編・・・25日（月）の観測会

地球最接近の報道が世界中に流された影響で、とうとう25日にも臨時の観測会を開いてしまいました。きっかけはちょっとした連絡の行き違いだったのですが、それが私にとって素晴らしい出会いのきっかけとなりました。この日、天文台に着いた私をもうすでに何人もの人が待ちかまえていました。しかし、天気が悪くひまわり画像を見ても回復の見込みは薄かったのですが、仕方なく天文台をあけることにしました。するとどうでしょう。次第に天候は回復し、10時過ぎからは快晴になって百武彗星の雄大な姿が肉眼でもはっきりと見えるようになったではありませんか。そこで、25時近くになってからやっとお客様も帰られたのを確認すると、私と艶島氏とで、そのまま甲佐町と矢部町の境の峠付近まで車をとばして観望に出かけました。すると、どうでしょう！！なんと太くて明るい尾が天頂はおろか遙か南の空まで60度以上も肉眼で確認できるではありませんか。

「生きててよかった！！」

「素晴らしいものを見せていただいたね！！」

「本当にこんな彗星が見えるなんて……」

と二人で感激の言葉をはきながら、見とれていました。

ウェスト彗星も別の意味ですごかったけれど、百武彗星のこの尾の長さと太さは驚きでした。今まで文献の中でしか知らなかった長大な尾をなびかせる大彗星の姿が、目の前にあるのですから信じられないでした。しばらくすると下の方から霧があがってきてその姿は隠されてしまいましたが、しっかりと目に焼き付いた姿は、今でもはっきりと思い出すことが出来ます。

「鹿本君ありがとう！」

こうつぶやきながら、二人天文台への道を急ぎました。

来台者数	19日（水）	50人～100人
	22日（金）	500人
	25日（月）	200人～300人
計	1000人程度	

この騒ぎのため、天文台の会員はほとんど写真を撮る機会に恵まれず、いくつかの貴重な作品が得られたにすぎません。もちろん小林壽郎氏のCCD画像はありますが、銀塩での写真はほとんど撮れませんでした。その天文台で撮影された貴重な核近傍の写真が下に示す「中尾富作氏」の作品です。実に色の豊富な彗星で、その様子がきれいに捉えられています。



data: 1996.3.26 01:40 30s 41Cm直焦 G-800

表紙にも書きましたが、現在編集部では百武彗星の写真を募集中です。集まつた写真は順次スキャナーで取り込んでインターネットの熊本県民天文台のホームページ上で公開しています。また、特集も予定していますので、プリントで結構ですのでデータをつけて送って下さい。みなさんの力作をお待ちしております。その際撮影場所もお知らせ下さい。

送付先 〒861-42 下益城郡城南町藤山1024-12 中島 尚 TEL 0964-28-738

★★現在までの協力者★★

大石さん、佐伯さん、中尾さん、高城さん、尾崎さん、木戸さん、花草さん

～'96年3月天文台運営日誌より～

・開台率: 8/16 = 50%

・来台者数: 875人以上(お客様)

日付	天気	来客数	運営	記事〔会員利用者〕(日誌記入者)
2(土)	晴	4人	中島、松野 岩永	シリウス、月、ベテルギウス、M41、M45、M42、 アンドロメダ、h-χ、金星 (岩永)
3(日)	晴	0人	中島、藪田	
9(土)	晴軒曇	4人	松野、中島 木村	Talk About: 百武彗星観測について(一般向け) (中島) [運営委員14名]
10(日)	晴	2人	斎島、中島 甲斐	M42、M41、金星、シリウス 撮影テスト (甲斐)
19(火)	曇	50人	斎島、中島 松野、中尾 ほか数名	百武彗星観測会(第一回)。どん曇りのお天氣にもかかわらず 大勢のお客さんで賑わった。昨夜(今朝)撮っておいたビデオが 活躍。熊高無線クラブより5、6名来台。1名入会しました。 「百武彗星ビデオ」を観る。解説で声が嗄れた。!見えないと きは解説が大変なんです。 (斎島)
22(金)	晴軒曇	500人	斎島、中島 中尾、松野、西嶋、荒井 長谷、小林、三上、 学生15人	雲が時々広がるが、百武彗星がパッチリ見えた。 スピカと同じくらい明るく、尾も長い。冷却CCDもI. I. も 大活躍。ドブソニアンや双眼鏡も活躍しました。 (斎島)
23(土)	曇	5人	中島、斎島 安達	百武彗星のビデオを見ただけ。 安達さん、なにしに来たのやら…可哀想ですね。 (中島)
31(日)	曇軒晴	10人	斎島	百武彗星。曇っていたので見えないだろうと思っていたが、う す雲の中ちゃんと見えた。お客様も喜んでいた。ただ、月が明る く、25日の姿とは大違い。 [中島] (斎島)

・運営日以外開台日: 5日

日付	天気	利用者	記事(記入者)
11(月)	曇のち晴	中尾	百武彗星の観測。月夜でもよく見えました (中尾)
13(水)	快晴	小林	彗星観測(CCD) : C1996B1; Szczerpanksi : 9等 : C29PS-W1 : 11等 : 45PH-M-S : 12等 : C1196B2; Hyakutake II : すごい・明るい。肉眼で染めに見える!! わあ~、大彗星 (小林)
15(金)	曇のち晴	0人 小林 有馬	12hより快晴。 1996B2、ついに3等台! 5h以降気温が下がり、写りが 悪くなつた。斜鏡に露がびっしりついていた。 (小林)
18(月)	晴半ば晴	斎島	1996B2。寝ようと思って空を見たら快晴! しばらく肉眼と双眼鏡で楽しんでいたが、 I. I. (Image Intencefire)+ビデオで撮影しようとやってきた。 満足! 明るい!!! (斎島)
25(月)	曇のち 晴軒晴	中島、斎島 藪田、磯田 松野、小林	百武彗星&月。冷却CCD+28mm、直焦、I. I.、肉視。 なかなかよく撮れました。 「いやあ、長生きするもんですよ。こんないいものを見せていただいていますよ」 尾は60°に及ぶ。本当にこんな彗星が見えるものですね [お客様300人以上] (中島)

小惑星命名の記

あの、清和高原天文台の宮本幸男名誉台長と、県民天文台の艶島敬昭台長の名前が天に召された……ワケはなく、お空の星に名前がついた。その名も、小惑星「M I YAMOTO」と「TSUYASHIMA」。以下はその命名にまつわる、珠玉(?)のエピソードである。ちなみに筆者は、某地方マスコミに勤める、しがない記者である。

「宮本さんとね、僕の名前がね、小惑星に付いちやうんだよ」。電話の向こうで、艶島さんの声が脳天気に弾んでいた。仕事に遊びに、多忙を極める艶島さんが、いつの間に小惑星なんて探してたんだろと思ったら、さにあらず。発見したのは北海道の渡辺和郎さんたちのグループだという。ますます深まる疑惑。「もしかして、地球征服に飽きたらず、宇宙に進出して小惑星ジャックでもやらかしたか?」

問題の小惑星は、小惑星番号6020と6023。ともにアステロイドベルト(火星と木星の間だよん)を平和に回っている小惑星で、渡辺さんたちが5年ほど前に発見していた。周期は約3年半。地球の軌道に入り込んでくる大迷惑なトロヤ群とも違い、特別有用な資源が確認されているわけでもなく、ごく、ごく普通の小惑星なのだ。なのに、なぜ艶島さんが? まさか、勤務先の某携帯電話会社の基地局を設置して、

「衛星通信だ!」(正確には惑星通信か)などとのたまうつもりでもあるまい。

こんな風に、とっさに頭の中で妄想を駆けめぐらせた筆者。しかし艶島さんは電話の向こうでさらに続けた。「いやあ、僕たちとね、渡辺さんたちはね、人工衛星の追跡調査と一緒にやっててね。それで名前をプレゼントしてくれることになったんだよ」。やっと合点がいった筆者。そうか、そうだったのか。艶島さんが「小惑星ジャック」したわけではなかったか。ならば平和な話。銀河系連邦の規約に反することもなく、宇宙の秩序を乱すこともなく、なんとも美しい友情物語ではないか。早速、新聞ネタにしなければ!

さて、次は発見者の発見に全力を挙げなければなるまい。何しろ、相手は日本の最果て北海道。向こうでは、熊本のことを持ての果てだと思っているに違いないが、こっちはこっちで大変なのだ。まずは九州大学の山岡均助手に連絡をとった。

「もしもし、××新聞の○○ですが、北海道の渡辺さんって、普段はどこに勤務してますか?」。ちょうど、カゼをひいて寝込んでいた山岡助手は、鼻声で「んんん、確か、札幌の少年科学館じゃなかったかなあ・・」。いつもは光速以上の頭の回転を誇る山岡助手も、カゼには勝てないらしい。返事はあい

まいだった。

断片的な情報をもとに、筆者はNTTの番号案内に望みをかけた。「あの、札幌市なんですが、少年科学館というのは・・」「はい、ございます。札幌市青少年科学館でございますね。番号は・・・」

親切な番号案内のおばちゃんのおかげで、驚くほどあっけなく見つかった渡辺さんの勤務先(正確にはアルバイト先。本業は別にある)。しかも、早速電話を入れてみると、ちょうど出勤日だというではないか。何という、宇宙的スケールの幸運。

早速、渡辺さんに、小惑星についての質問を矢継ぎ早に浴びせる筆者。「どんな軌道を回ってるんですか? 発見日は? 明るさは?」。ところが、自分で発見した小惑星だというのに、渡辺さんは全く思い出せないらしい。「なんせ、三百個ぐらい発見してるもんで。家に戻ってコンピューター立ち上げないと、分かんないんですよ」

三百個! いくら渡辺さんだけでなく、円館金さんたちとの共同観測とはいえ、何ともすごい数ではないか! ちなみに、軌道が確定して命名権を持っている小惑星は約百五十。これだけたくさんあれば確かに、地の果ての天文仲間に、名前の一つもくれるかもしれない。

宮本さんと、艶島さんのコメントを取って、無事に取材は終了。宮本さんは電話口で「いや

あ、文字通り、空から降ってきたような話ですなあ」と、ひょきんなコメントを述べておられた。艶島さんは「自分の名前が残るなんて、はずかしい・・・」

と、ガラにもない発言。

ところで今回、小林寿郎さんの「JURO」の命名が見送られたことについても、触れておかねばなるまい。宮本さんたちと一緒に命名の申請は出してあったのだが、決まったのは二人だけ。残念なことに寿郎さんは漏れてしまったのだ。別に寿郎さんの普段の行いに問題があつたわけではなく、すでに「JUJO」「JUNO」といった、紛らわしい名前が登録されていたのが原因らしい。もっとも本人は「自分で見つけて自分で命名するもん」と開き直っているという話だが(未確認)。事実、寿郎さんは小惑星を発見していて、次の衝で観測して軌道が確定したら、命名権の保有者になれるのだ。

ともあれ、熊本から同時に2人も命名されるなんて、本当にめでたい話。発見時の明るさは共に約16等級というから、衝の位置でもそれほど明るくなることはないだろう。しかし冷却CCDなど、最新鋭のテクノロジーが集結している我が天文台。いつの日か、画面のシミのような「MIYAMOTO」「TSUYASHIMA」を見てみたいものだなあ。

シリウスよりも輝いた時

第四話 警部補 岩永しようこう

鷹見 伸哉

「絞殺死体発見される」「強盗殺人」

二つの記事が第二面の中段を飾っている。五日前の新聞だ。僕は、もう一度読み返しながら思った。大丈夫だ。僕はぜったいに捕まらない。

白石めぐみもその男も、押し入りの強盗によるものとなった。そう仕組んだわけではない。警察が勝手にそう判断したのである。確かに僕と白石めぐみとの間には、ほとんど関係というものが存在しなかつた。まして、その男などと接点があるわけもない。偶然にも目撃者が出現しなかつた今、警察が僕までたどり着くのは至難のワザだろう。…だが、共恵は別だ。彼女とは深い関係にあった。むろん、警察はまず第一に僕に目をつけた。

しかし、僕にはアリバイがあった。彼女は死亡推定時刻夕方5時から6時、熊大近くの彼女のアパートにおいて絞殺されている。これは警察の検察によって立証されている。その間、僕は城南の天文台にいたのだ。そこで、磯田さんからの電話を受けている。キッカリ5時半に。磯田さんは、その時刻、確かに実家の天草から天文台（0964-28-6060）に電話をかけている。前日、一人で天文台を訪れた際、機材の一部を置き忘れてしまったらしい。その確認の電話をいれているのだ。これは磯田さんの両親の証言からも立証されている。天文台からどんなにバイクをとばしても、犯行現場である彼女の部屋までには30分をかけることはできまい。まして、交通渋滞のもつともキツイ時間帯である。僕には不可能な犯行だったのだ。いろいろと不可解な点はあつたらしいが、磯田さんの電話のアリバイはかたく、僕は晴れ無罪放免となつたのであった。

「大変でしたね、沢木さん」岩永が語りかける。例会もすでに解散し、今、部室には僕と岩永だけが残っていた。「ああ…まさか共恵があんなことになるなんて…」僕は伏し目がらにつぶやいた。警察の尋問に慣れてしまつたせいか、我ながら驚くほど自然に言葉がでてくる。「だけど、沢木さん、天文台の鍵は持っていましたんですか?」「前に借りたときに合鍵を作つておいたんだ。最近よく天文台に足を運んでいたから」これは本当の事である。「そうですか…」岩永は少し首を傾げたようだった。「でも、鍵は全部登録しておかなければなりません。艶島さんにちゃんと話しておいて下さいね」「そうなのか?ごめん、知らなかつたよ。わかつた。今からでも天文台に行って話してくる」そう言って僕が立ち上がつた時、岩永は思い出した様に僕に尋ねた。「すみません、共恵さんの電話番号はいくつでしたっけ?」「642-8606 だけ…それが?」「あ、いえ、なんでもありません…」岩永の質問は気になつたが、僕はとりあえず天文台へと向かった。

いきなりあたりが真っ暗になり、岩永にスポットが当てられた。

「えー、間違いなく犯人は沢木信夫です。いくつもの偶然の重なりが、彼に強固なアリバイを作つてしましました。ヒントは電話番号です。岩永しようこうでした」

アクセルを二、三度ひねつた後、僕はエンジンを切つた。あたりはもう真っ暗だつた。天文台には明かりが灯っていない。まだ、誰も来ていないようだ。僕は空を見上げた。満天に冷たい星の輝きが広がつてゐる。月が昇るまでにはまだ間がある。僕は冷たい芝生の上に腰をおろした。僕の瞳の中に、ひときわ輝く光りがあつた。その星は、僕の中のめぐみのように、周りの何よりも光り輝いていた。シリウスはギリシア語で「熱い」を意味する。熱い恋、熱い嫉妬、熱い憎悪…。僕の心はシリウスに魅入られていたのだ。僕の行為はシリウスに増幅された感情に支配されたものだったんだ。そう…僕の本心に關係なく。全てはシリウスの戯れだったんだ。

スッと一条の閃光がシリウスの横を駆け抜けた。僕は我に返ると共に、肌を突いてくる冷氣の針を感じ

た。天文台に入るか。僕はゆっくりと立ち上がった。

ガチッ！「あれっ？」ガチッ ガチッ… 鍵が合わない。

「その鍵では開きませんよ」後ろから不意に声がした。「岩永！どうゆうことだ！？」

「開くわけあえりませんよ。それは僕の部屋の合鍵なんですから」

「えっ！？」僕には何のことだかさっぱりわからなかつた。

「沢木さんが鍵を最後に借りたのは、確か事件の3日前の昼頃でしたよね？合鍵を作ったとしたらその時のはずです。確かあの日は夕方から雲が広がってしまったので天文台には行かないからと言って鍵を返されたでしょう？」

「ああ。だけせつかく鍵を借りたから、合鍵を作っておいたんだ」

「実はあの時、間違えて僕の部屋の合鍵を渡してしまったんです。結局すぐに返してもらったので、言う必要もないと思っていたのですが…。それに、事件の前日、磯田さんは一人で天文台に来ていたわけですから、もちろん、磯田さんからも鍵は借りていなかつた。つまり、あなたは鍵を持っていなかつたわけです。それなのにどうして天文台の中の電話にでることができたのですか？いや、できなかつたはずです！」

「ちつ違う…、そうだ！あの日は鍵が開いてたんだ！！」

「ここには大事な機材が数多く置いてあります。そんな無用心な事はしませんよ」

「ほつ本当なんだ！確かに鍵が開いて…」

「もうよしましよう、沢木さん。あなたは共恵さんを殺した。もちろん、その時には何の計画も存在しなかつたのでしょう。ところが、ある偶然の重なりが、あなたに完全なアリバイを与えてしまった。あなたは彼女の部屋で電話にでたのでしょうか！磯田さんからの電話に！！

僕は何も言えなかつた。ただ、つばを呑込む音だけが大きくあたりに響いた様に思えた。

「磯田さんは確かに天文台に電話したつもりでした。0964-28-6060。ところが、実際に押した番号は096-642-8606(0)だったんです！天草から市内へは、もちろん市外局番が必要です。電話は彼女の部屋に通じてしまつたんですよ！ちょっとしたはずみで6を連続で押してしまつた為に！！…さぞ驚かれたことでしょう。殺人を犯したその時に、しかも知り合いから電話がかかつたのですから。しかし留守電に話している磯田さんの話を聴き、天文台と間違えている事を知つたあなたは慌てて電話にでた。それが真実です…」

「何を証拠に…」僕はそう呟くのが精一杯だつた。

「確かにその日、その時刻にこの番号に電話がかけられていました」

岩永はポケットから1枚の葉書きのようなものを取り出した。DDI 通話明細書と書かれたその紙には17:32:56 096-642-8606 熊本 と、はつきり記載されている。僕は静かに目を閉じた。見なくとも解っていた。彼の言った事は全て真実なのだから…」

「一つだけ言わせてくれ…。俺は共恵を殺した時、本当に自首しようと思っていたんだ」

「わかっていますよ」岩永は優しく微笑んだ。僕は静かにその場にしゃがみ込んだ。

「だが、そこにあの電話がかかってきた…。これが偶然だと思えるか？いやっ！そんな偶然があるわけがない！あれもシリウスの戯れの中に含まれていたんだよ」

シリウスが一層、その輝きを増した。

「！？」岩永は戸惑いの表情を浮かべた。何か変だ！

僕は続けた。「俺は思ったんだ。これも、そしてこれから起る事も全てシリウスの企てなんだって。だから殺したんだ…。あの女も！！」僕は叫ぶと同時に岩永に向かって飛びついた。右手には大きめの石が握られている。「沢木さん！！」岩永の叫びが遠くで聞こえたように思えた。

僕は、完全にシリウスに魅入られてしまったようだ…。

沢木はペンを置くと、頭を抱え込んだ。天文台の会報「星屑」の小説を依頼され、気安く引き受けてしまったのだ。主人公は沢木、ヒロインは白石めぐみーそんなキャストを思い浮かべながら…。こいつは……ボツだな。クシャ！

熊本大学天文研究会春期合宿について

徳尾 尚史

期間：1996（平成8）年3月18日（月）～20日（水）

場所：鹿児島県曽於郡輝北町市成1660-3 きほく上場公園

参加人数：16名

費用：10000円（1人につき）

太陽系において、肉眼では観測できない小天体を含めた多くの天体が太陽を一つの焦点として運動しています。その中において太陽、惑星を除いて肉眼で観測できる天体はなかなか現れるものではありません。しかし、今年に入って幸運にも二つの肉眼で観測できる彗星が存在しております。特に百武彗星が今年中に近日点を通過する為、尾が長くなります。故に天文研究会としまして観測会を計画致しました。また、発見者の百武氏が鹿児島県隼人町の方ということと、その近くの輝北町に天球館という天文台があり、日本で最も夜空の鮮明な所であることで場所を選び、新月が19日なので滞在期間を決めました。しかし、天球館が月、火曜日は定休日となっていましたが、開いている時でも午後10時までしかしていないということで敢えてこれらの日を選びました。

第一日目

午前8時までは雨が降っていましたが、それ以降晴れ上がりました。午前8時30分より3人で研究会の部室にある器材を自動車に乗せ、熊本大学構内に集合しました。午前10時頃に5台の自動車の全てにガソリンが満たされて、出発致しました。まず、九州高速道路にのる為に、御船インターで待ち合わせをして、30分程後動きました。最初の休息所に停車し、山江サービスエリアまで何事も無く進みました。八代からえびのまでの球磨川沿いでは単車線が多く、青々として所々山桜の桃色のある山や谷のなかを進みました。山江に着いた時、正午でありましたのでそこで昼食を取りました。その後、加治木インターで高速道路から下りて国道、県道等を通って天球館のある公園に午後3時30分頃至りました。途中、桜島の噴煙が何度もキノコのように立ち昇るのが見えました。きほく公園は高原で青々とした芝生がはえておりました。また、西南の方角には桜島が観望できました。すでにバイクで大分県から天文研究会の2年の後藤が着いていて、宿泊施設の受付の人と議論中がありました。2練のバンガローを借り、性別によって別れました。ストーブが一方の棟のみだけだったので、事務所から1台ストーブをお借りいたしました。受付をしている時、窓ガラスが揺れました。急いで外に出てみると桜島から大きな噴煙が出ていて爆発したことが解りました。職員の人に聞いてみると地面を搖れが伝わってきたものだそうです。温泉や夕食、明日の食料品の買い出しの為に垂水市に向かうので、午後5時頃、4台の自動車に15名で運転手をのぞいて無作為に配属しました。山道を通って垂水市に至りスーパー・マーケットで買い物をしました。垂水市にいる間、桜島の噴煙が渦を巻くように上空を覆いました。買い物が終わると、1台の自動車だけ温泉やレストランを探させ、他の3台はスーパー・マーケットに待機しておりました。始めに夕飯をレストランで温泉は浜平温泉『はまゆう』に入りました。その後、酒店に寄って鹿児島湾のまわりを通ってきほく上場公園に戻りました。途中ちょっとした問題が生じましたが、午前0時に公園に着きました。この時の天候は曇りでした。

第二日目

これから日の日程を決める為にバンガローの第一号館に集まり話し合いを30分程して、外が晴れわたっているという報告が届きました。それで、話していたところ、外が晴れわたっているという報告が届きました。それで、話して中止して体が動ける人全て外に出ました。これで30分の話し合いは無効となりました。空は6等星以上の星が見え、さすがに日本で最も星空のきれいなところであると思えました。また、熊本でみる星空に比べ南は高く、北は低く見えた。それに幸いなことに桜島の噴煙が南に流れているので観測には全く影響はありませんでした。ただ、北風が強く撮影は不可能でした。尾が肉眼でも観測出来ました。最初は双眼鏡を使って観測いたしました。次に反射望遠鏡を組み立てて彗星のコアや核を観測しました。他にも幾つかの星団も観測してみました。最後にヘル・ボップ彗星をみつけようとして射手座付近をみてみましたが、確認出来ませんでした。午前4時には寒さが厳しくなったので観測会をやめて各部屋に入りました。室内で望遠鏡を解体しました。とても寒いのでストーブと換気扇をつけたままで就寝がありました。我々が休んだ直後に天文台にて周辺を散策してみると、あちこちに火山灰の積んだ黒い地表が露出しています。周辺を散策してみると、あちこちに火山灰の積んだ黒い地表が露出していました。午前10時頃2年生の小野が宮崎県の自宅から家の方と公園に来ておりました。午前11時30分に研究会の方々からパンと野菜や肉をもらい自分達でサンドイッチを作りました。朝食をとっている最中に公園を訪れた2人の御婦人が近づいてらして宿泊施設や合宿について聞かれたので天文研究会会長の岩永が解説いたしました。男の方は朝食をすませて天文台の下のアスレチックで遊んでいました。その間女の方は食事を取っていました。検討がなされた後、午後3時に買い物、その間に1台の自動車は温泉を探しました。午後4時30分に吉田温泉に行き、午後6時頃温泉を出ました。この頃から雲が出始めました。途中、第3日に行く予定の野鶴亭経由で公園に帰りました。午後7時に着き、それから男の方は主に食事をとる棟の片づけで、女の方は御飯、マーボー豆腐、餃子を作りました。午後8時30分までに片づけも終わったところ、空は全く星が見えない程雲が出ていました。それで、薮田を講師としてサークルの機材の使い方の講習会が開かれました。午後11時に全参加者は就寝いたしました。

第三日目

午前6時30分、寒さの為男の方は目覚め、何かについてストーブの周りで話し合いました。午前8時に荷物をまとめ、掃除をしました。午前9時に公園の事務所に出て行くことを知らせて国分市、隼人町に進みました。午前10時にまず朝食を取る為に隼人町のレストランに寄って、バイキングになっていたので思う存分食べることが出来ました。午前11時30分に野鶴亭の温泉に入りました。溝辺の方より男の方がゆっくりつかっていました。午後1時に出発しました。溝辺インター経由で熊本市に午後4時に着きました。途中、えびのサービスエリアで休憩しました。熊本大学内で今後の為の反省会を行いました。特に時間厳守、団行動の反省が上げられました。その後、酒等の余った物資を競売で売り払い、午後5時30分をもって熊本大学天文研究会春期合宿を終了致しました。

大彗星の出現でした。もう、連日の大騒ぎ。曇りが続いてヤキモキしましたが、何とか観測もできて、大成功でした。50度以上の尾が見えたとか。いやー良かった良かった。と言うわけで、5月の行事、いってみよー！！

☆ 5月の天文現象＆行事 ☆

- 1日（水） 八十八夜
3日（金） 満月（20：48）
4日（土） 金星が最大光度（-4.5等）
5日（日） 立夏（太陽黄経45°）
7日（火） 月の距離が最近（366530Km）
10日（金） 下弦（14：04）
11日（土） トークアバウト（20：00～）

12日（日） ☆熊本県民天文台総会☆

場所： 城南町歴史民俗資料館研修室（天文台の横です）
時間： 13：30～
内容： 記念講演「百武彗星について」小林壽郎氏
小惑星の命名についての報告 宮本幸男氏
議事 活動報告・会計報告・活動計画案・予算案
役員選任等

★百武彗星の写真など多数展示予定★
★ホール・ボップ彗星が明るくなるぞー！！★

- 17日（金） 新月（20：46）
23日（木） 月の距離が最遠（405066Km）
25日（土） 上弦（23：13）

熊本県民天文台機関誌 「星屑」 1996年5月号 通巻254号

発行所 熊本県民天文台事務局 〒861-42

熊本県下益城郡城南町塚原古墳公園内 熊本県民天文台

TEL 0964-28-6060

振替口座 01980-0-24463

熊本県民天文台事務局 担当 中尾 富作

記事やメールはこちらへ Nif CXN00455 Int tommy@interserve.or.jp